

# fun pun clock®

Designed by Yoko Dobashi / Lemnos Inc. Made in Japan



Preschool



Home



YD14-08 L 12,000円+税  
φ365×d48mm / 970g  
4515030075028



YD14-08 M 8,000円+税  
φ305×d48mm / 725g  
4515030075035

スライウッド、ガラス  
ステップセコンド



## Designer Profile

土橋 陽子  
Yoko Dobashi

株式会社イデーに5年間('97~'02)所属し、定番家具の開発や、「東京デザイナーズブロック2001」の実行委員長、ロンドン・ミラノ・NYで発表されたブランド「SPUTNIK」の立ち上げに関わる。イデーの現行定番家具〈bian chair〉や、授乳時に赤ちゃんを起こさない提灯型led照明〈milk time light〉、1枚の展開図を「曲げて」「差し込んで」「折って」作る〈let's light〉をデザイン。2012年より「Design life with kids!」インテリアワークショップ主宰。モンテッソーリ教育の視点を生かし、「手を動かしながら、インテリアを作り上げる」ことを心がけ、様々な企業とコラボレーションして、ワークショッププログラム開発に取り組む。また、ウェブマガジン「All About」でのインテリアガイドも務める。

現在は2児の母親として、子供のいる生活空間の探求、手を動かしながら生活を作ることが目下のテーマ。

<http://yokodobashi.com/>

### Special thanks !

開発協力：日本モンテッソーリ教育総合研究所 主任研究員 櫻井美砂

撮影：福岡幸治 <http://kojifukuzaki.tumblr.com/>

ロゴデザイン：濱中幸子（デザイン事務所 Vol.） <http://vol-web.com/>



## 株式会社タカタレムノス

東京ショールーム・オフィス  
〒112-0012 東京都文京区大塚3-7-14 シャノワール文京1F  
tel 03-5981-8120 fax 03-5981-8365

本社  
〒933-0957 富山県高岡市早川511  
tel 0766-24-5731 fax 0766-22-8071

[www.lemnos.jp](http://www.lemnos.jp)  
[info@lemnos.jp](mailto:info@lemnos.jp)

# fun pun clock®

時計の読めない子が  
読みたいと思う  
アナログ時計。

## ふんぷんくろっく

ちょっぴりユーモラスな名前の由来は、“時”を表わす「1~12」の文字が、60進法の“分”の読み方となった際に、「5ふん(fun)」「10ふん(pun)」「15ふん(fun)」「20ふん(pun)」〜と交互に繰り返されることから名付けました。大人が子供に声がけしやすい、シンプルで素材の美しい、どのようなインテリアにも合う時計ができました。

## [ 大きな3つの特徴をもった時計 ]

### ① 子供のいる風景に「笑顔」を増やす時計

子供が、どんなかたちであれ時計に積極的に関わりたいがるタイミングがきたら、次のステップとして一緒に時計と関わろうとする大人の存在が重要になります。教育の現場だけでなく、日々の大半を過ごすご家庭で大人が意識して、行動と時間を結びつけてあげる事で子供は「どれくらいの時間で、自分はどんなことができるのか」を体で覚えるようになります。

お子様が時計に興味をお持ちになった際は、是非一緒に「音読」してあげてください。親子で、声をひそめて秒針の「コチコチ」という音を聞いたり、一緒に60まで数えたり、毎日お風呂やベッドに入る際に時刻を確かめたり、手で確認しながら「5分・10分」と声にだしたり。かけがえのない親子のコミュニケーションの柔らかな時間は、その最中には大変で気がつきませんが、人生のほんの一瞬しかない貴重なものです。

### ② 入り口のアナログ時計

「自分のことを自分でやりたい！」と願うお子さんが、時間の概念も身につけてくれたら、パパもママも助かりますよね。たとえば、「前よりも出かける準備を早くできるようになった」という“小さな実感”の積み重ねはお子様の自信に繋がります。タイミングを見て、時間と行動をセットにして成長を褒めてあげてください。子供も自分で計画をたてられることで自信をつけ、より大きな満足感を得られる経験の繰り返しで自信を深めます。また、アナログ時計は円グラフに通じる、感覚的に行動計画と一致させる事が出来るということから、デジタル主流の昨今でも見直されています。

### ③ 母親の視点と、モンテッソーリ教育理論を土台としたデザイン

子育て経験のある女性デザイナーの「母親の視点」と、日本モンテッソーリ教育総合研究所の主任研究員・櫻井美砂様のご協力による、専門家の意見を取り入れた上での商品開発を進めてきました。

「子どもは大人が思っている以上に知的好奇心が旺盛です。『これは何?』『どうして?』と熱心に質問を繰り返す姿は、自分の力でこの世界について知ろうと学ぶ、自己教育力(自分を育てる力)のあらわれといえます。少し工夫して、子どもが自分で分かるような環境を整えてあげれば、子どもは自ら環境に関わり、知性を生き生きと働かせ主体的に行動するようになります。大人の役割は知識を教え込むことではなく、子どもが自分で学んだり、考えたりすることのできる環境を整えることにあります。」

日本モンテッソーリ教育総合研究所 主任研究員 櫻井美砂

意外に思われるかもしれませんが、数への興味は実は幼児の頃から芽生えています。その「数への興味」の一環で、時計に興味を持つ事も多いのです。その時期の幼児が、1~12の数字だけで、時針と分針が示す時刻を理解するのは難しく、補助的に分針が示す時刻を5分、10分・・・と母親が市販の時計に付け足す必要がありました。「fun pun clock」には、モンテッソーリ教育の視点からヒントを得て「時間や時刻の理解を促す」の為に仕掛けをちりばめています。

## [ デザインの有意性 ]

### ① ステップムーブメントの採用

1秒が「どれくらいの間隔なのか」を、音で感覚的に理解できる仕掛け。また、60進法の理解への足がかりとして数えやすいように、コチコチと時を刻むムーブメントを採用しました。昨今は切れ間なく回転する秒針を採用したインテリアクロックや、デジタル時計・携帯電話で時刻を確認する大人が増えたため、子供が1秒を知る機会を失いつつあります。眠れない夜に聞こえてきた時計の「コチコチ」と刻む音の感覚を知っていることは、時間内に用事を済ませたり、準備を整えたりする為の基礎となるでしょう。

### ② 色の効果

子供用のアイテムであるからこそ、シンプルで素材の質感がそのまま美しい事が重要です。プライウッドの木の質感と、シンプルなモノトーンの文字盤を採用し、時計を理解する為に重要なポイントには「艶のある赤」を効果的に取り入れています。他に装飾的な色を用いない事で、子供が直感的に「時間の理解」や「時刻の認識」にのみ集中できるようにしています。また、大人がお子さんにお声がけしやすいようになっています。

例：

\*まずはお子さんが「動いている」と唯一目で認識できる秒針を、「1~60」まで一緒に数えてあげて下さい。「動いている赤い細い針を60数えてみようか?」

\*次に、分針を中心に秒針や時針を関連づけるような声がけをしてあげてください。「針先の赤いところが、今『なんぷんか』わかるところよ。35分ね、7をまたがっているでしょ。60数えたときに、「7」は「35」だったわね。」etc.

### ③ 数の表示や、数同士の間隔の取り方に「子供の視点」を取り入れている

実は時計の一番上にくるのが「12」だという事は、数の敏感期にある幼児にとっては「とても意外なこと」です。「0」の概念がある子は、「12」の位置に「0」を。「0」の概念のない子は、「12」の位置に「1」を配置したがる傾向にあります。そこで、「12」の文字を若干強調する工夫がされています。また、10.11.12の2桁の数字の表記も、隣同士の数が混同されないように配慮されています。